

厚生労働科学研究費補助金（肝炎等克服政策研究事業）  
分担研究報告書

埼玉県におけるコロナ禍の肝炎コーディネーターの活動実態と課題

研究分担者 内田義人 埼玉医科大学 消化器内科・肝臓内科 助教

**研究要旨**

【背景】埼玉県では令和元年度までに 800 名を超える肝炎 Co を養成したが、その活動実績は低く、特に令和 2 年度は新型コロナウイルス感染の流行により低下していることが予想される。コロナ禍における肝炎 Co の活動実態を明らかにするために肝炎コーディネーターへ活動に関するアンケート調査およびパネルディスカッションを実施した。

【方法】ウェブで開催した肝炎コーディネーター養成研修会、フォローアップ研修会において、肝炎コーディネーターへ活動に関するアンケート調査およびパネルディスカッションを実施した。

【結果】肝炎コーディネーターの活動に関するアンケートは 132 件の回答が得られた。アンケート調査において実際に活動していると回答したのは 39%と低率であった。埼玉県肝疾患地区拠点病院においては、肝炎 Co のアクティビティが高く、配置も充分であることが伺えるが、非拠点病院において肝炎 Co の活動実態はなく、配置も不十分であることが明らかとなった。パネルディスカッションでは各地区拠点病院から選出された 11 名の肝炎 Co が参加し、コロナ禍を理由とした通院自己中断をなくすための取り組みの工夫などに関して議論があった。

【結語】肝疾患は比較的自覚症状に乏しく、コロナ禍を理由とした通院自己中断が起きやすい。コロナ禍を理由とした通院自己中断をなくすための取り組みなどについての肝炎 Co の活動の好事例、工夫を共有し、病院内外の肝炎 Co のアクティビティの向上につなげることが課題である。

**A. 研究目的**

人口 10 万人あたりの肝臓専門医が 2.79 人（2017 年現在）と少ない埼玉県では、肝疾患診療連携拠点病院以外に、県内を 10 の医療圏に区分し各医療圏に 1 つ以上の県指定の地区拠点病院 15 施設を設置し、肝疾患の治療に取り組んでいる。さらに、平成 25 年度～29 年度に 477 名の肝炎 Co が誕生し、肝臓専門医と共に肝炎治療に従事している。肝炎 Co の内訳として、看護師 159 名、保健

師 9 名、栄養士 43 名、薬剤師 90 名、臨床検査技師 112 名、医療事務員 40 名、患者 8 名、その他 16 名であり、その多くが肝疾患診療連携拠点病院ないし地区拠点病院に所属している。

さらに、平成 30 年度には病院外で活動するメディカルスタッフを養成する目的で、肝炎地域コーディネーターの資格を設定し、病院内で活動する肝炎医療コーディネーターとは別に養成研修会を実施して

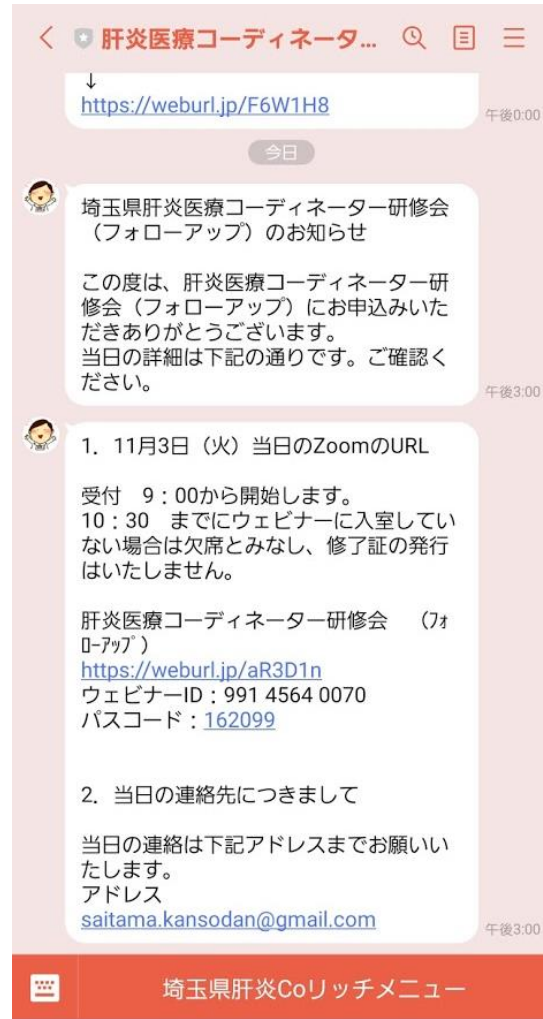
いる。平成30年度～令和元年度に、新たに228名の肝炎医療コーディネーター（看護師69名、保健師2名、栄養士16名、薬剤師37名、検査技師63名、事務員24名、その他17名）と、132名（看護師3名、保健師40名、栄養士2名、薬剤師1名、検査技師1名、事務員81名、その他4名）の肝炎地域コーディネーターが誕生した。

令和2年度は新型コロナウイルスの流行により、密を避けるために会場での肝炎コーディネーター養成研修会およびフォローアップ研修会の開催は困難であり、ウェブ開催での研修会を実施し、コロナ禍における肝炎Coの活動実態を明らかにするために肝炎コーディネーターへ活動に関するアンケート調査およびパネルディスカッションを実施した。

## B. 研究方法

Zoom ウェビナーを利用して、2020年11月3日に肝炎医療コーディネーター養成研修会、2020年11月24日に肝炎地域コーディネーター養成研修会を開催した。肝炎医療コーディネーター養成研修会では、肝疾患の基礎的な知識（総論・各論）、県の肝炎に関する施策について、肝炎地域コーディネーター養成研修会では、肝疾患の基礎的な知識（初級）、県の肝炎に関する施策、仕事と治療の両立支援について講義を行い、いずれの研修会においても google フォームを利用して試験を行った。

また、2020年11月3日に Zoom ウェビナーを利用して開催した肝炎コーディネーターフォローアップへの申し込み時に、LINE「肝炎医療コーディネーター活動応援団」と友達になってもらい、同システムを利用して活動に関するアンケート調査を実施するとともに、パネルディスカッションにおいてコロナ禍における肝炎Coの活動実態と課題について討議した。



肝炎Coの活動に関するアンケート内容を以下に示す。

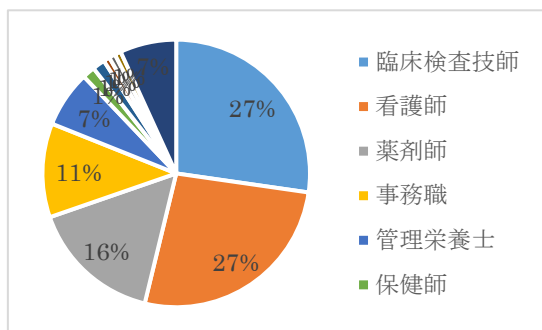
- ・施設名
- ・職種
- ・肝炎Coの活動ができているかどうか
- ・肝炎Coの活動に際して人数が足りているかどうか
- ・肝炎Coの活動時間がいつか
- ・新型コロナウイルスによる活動への影響の有無
- ・活動でよかったこと
- ・活動で困ったこと

## C. 研究結果

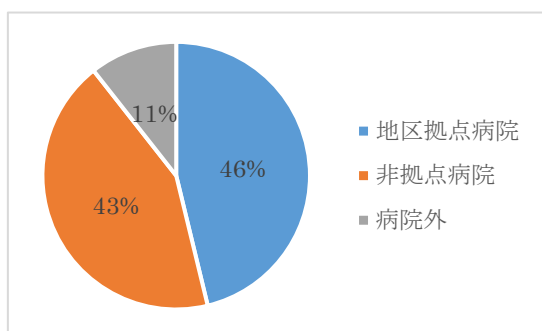
令和2年度に新たに肝炎医療コーディネーター80名（看護師13名、栄養士1名、薬剤師19名、検査技師20名、事務員19名、

その他 8 名) と、肝炎地域コーディネーター 28 名 (看護師 2 名、保健師 13 名、栄養士 1 名、事務員 11 名、その他 1 名) が誕生した。

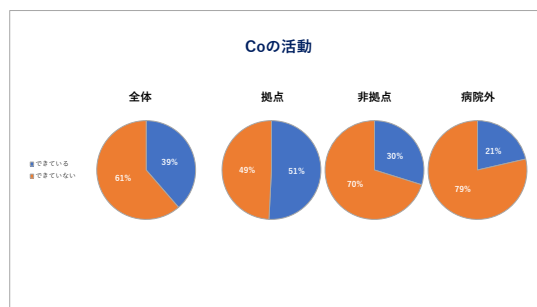
肝炎コーディネーターの活動に関するアンケートは 132 件の回答が得られた。職種は、検査技師が 36 名 (27%) と最多で、次いで看護師 35 名 (27%)、薬剤師 21 名 (16%)、事務職 15 名 (11%)、栄養士 9 名 (7%)、保健師 2 名 (1%)、医薬品卸業 2 名 (1%)、MSW1 名 (1%)、患者会 1 名 (1%)、放射線技師 1 名 (1%)、未回答 9 名 (7%) であった。



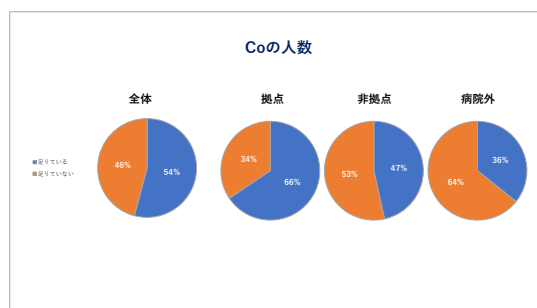
所属施設は地区拠点病院が 61 名 (46%)、非拠点病院が 57 名 (43%)、病院外は 14 名 (11%) であった。



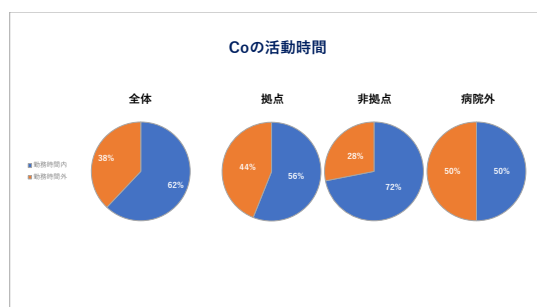
肝炎 Co として活動ができていると回答したのは 51 名 (39%) であった。これを所属施設ごとに見ると、地区拠点病院では 51% と高率であったが、非拠点病院、病院外は 30%、21% と低率であった。



活動に際して肝炎 Co の人数が足りていると回答したのは 72 名 (54%) で、地区拠点病院は 66% であるのに対し、非拠点病院 47%、病院外 36% と低率であった。



活動の時間に関して、肝炎 Co の活動が勤務時間内であると回答したのが 85 名 (62%) で、地区拠点病院は 56%、非拠点病院が 72%、病院外は 50% であった。



新型コロナウイルス感染が肝炎 Co の活動に影響があったと回答したのは 52 名 (42%) で、地区拠点病院が 65%、非拠点病院が 16%、病院外は 43% であった。

コロナ禍における肝炎 Co の活動に関するパネルディスカッションは、各地区拠点病院から選出された 11 名の肝炎 Co が参加

した。このうち、肝臓病教室を実施できているのは1施設のみ(ウェブ開催)であった。肝臓病教室が実施できない代わりに、院内で掲示物、配布物を作成するなどの意見があった。また、外来業務に関して、コロナを理由とした自己中断をなくすために、未受診者を中心に肝炎 Co が受診を促す電話連絡をするや、患者の要望に応じて、待ち時間を減らしたいと考えている場合には、検査日と診察日を分ける、受診回数を減らしたいと考える場合には、検査と診察を同日に組むなどの取り組みについて発表があった。

#### D. 考察

埼玉県では令和2年度までに肝炎コーディネーター477名、肝炎医療コーディネーター308名、肝炎地域コーディネーター160名と多数の肝炎 Co が誕生しているが、アンケート調査において実際に活動していると回答したのは39%と低率であった。肝臓病教室の実施を必須としている地区拠点病院においては、肝炎 Co のアクティビティが高く、配置も充分であることが伺えるが、非拠点病院において肝炎 Co の活動実態はなく、配置も不十分であることが明らかとなった。

また、新型コロナウイルス感染流行の影響は、肝炎 Co の活動アクティビティが高い施設ほど顕著であった。肝疾患は比較的自覚症状に乏しく(特にHCVのSVR後や脂肪肝など)、コロナ禍を理由とした通院自己中断が起きやすいことが推測される。したがって、コロナ禍を理由とした通院自己中断をなくすことが、病院内外の肝炎 Co の課題である。従って、LINE「肝炎医療コーディネーター活動応援団」など利用し、コロナ禍における肝炎 Co の活動の好事例、活動の工夫などを埼玉県内の Co で共有し、Co のさらなる活動につなげることが重要である。

#### E. 結論

埼玉県におけるコロナ禍での肝炎 Co の活動実態と課題について検討した。

#### F. 研究発表

##### 1. 論文発表

なし

##### 2. 学会発表

\*赤羽 典子, 小針 陽子, 玉井 彩加, 内田 義人, 持田 智, 埼玉県における肝炎対策の新たな取組 一般医療機関における術前検査等での肝炎検査実施状況に関するアンケート調査, 肝臓 (0451-4203)61 巻 Suppl.1 Page A262

\*田山 智美, 内田 義人, 飯塚 綾子, 征矢野 ゆみ子, 持田 智, 埼玉県における肝炎医療および地域コーディネーターの活動実態と課題, 肝臓 (0451-4203)61 巻 Suppl.1 Page A233

\*内田 義人, 中山 伸朗, 持田 智, 肝癌・肝炎の拾い上げとリスク評価 埼玉県における医療費助成診断書に基づいたDAA治療開始患者の解析 自治体検診と職域検診での陽性者の比較, 肝臓 (0451-4203)61 巻 Suppl.1 Page A106

#### G. 知的所有権の取得状況

なし

##### 1. 特許取得

なし

##### 2. 実用新案登録

なし

##### 3. その他

なし

